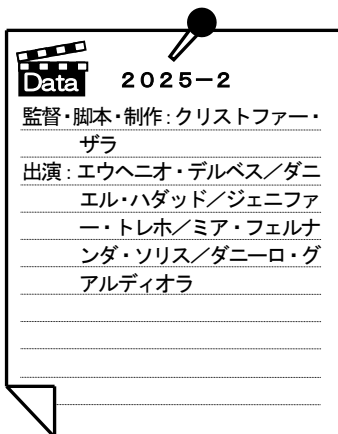




みどころ

中国には昔から「科挙」の制度があり、今でも「高考」の制度がある。しかし、日本の団塊世代として生まれた私だって、過酷な大学の受験勉強の中で中高時代を過ごした上、自分の意思で司法試験の道を選択した後も、競争、競争、また競争の中で生きてきた。

他方、麻薬の国、教育劣等国(?)のメキシコの小学校では、受験勉強などありえない。貧しい家庭では学校に通うことすら困難なのだから、それは当然だ。しかも、フアレス先生の「型破りな教室」下の生徒たちは、宇宙飛行士に憧れて天体望遠鏡を作る生徒や、スチュアート・ミルの哲学書を読む生徒がいても、メキシコ版全国共通テストとも言うべき ENLAGE ではからっきしダメ! 誰もがそう思ったが・・・。

教育とはナニ? それは、自分から主体的に興味を持ったことを自分の頭で考え、悩みながら答えを出すこと。したがって、答えの正否は問題ではない。なぜなら、現実の社会では正解が何か、それ自体がわからないのだから。私はこんな映画が大好き! すると、次のスティーブ・ジョブズは一体誰が・・・?

■□「学校モノ」あれこれ! メキシコにもこんな名作が! □■

2024 年 10 / 27 の衆議院議員総選挙では、与党の過半数割れと、103 万円の「年収の壁」をアピールした国民民主党の躍進を受けて、政局は大混乱。2025 年 1 月から始まる通常国会では、「政治とカネ問題」で、引き続き揉め続けることだろう。

他方、内部の不和がささやかれる日本維新の会では、投票によって新代表に就任した吉村洋文大阪府知事が新たな共同代表に、ここしばらく教育無償化に焦点を絞った政治活動が続いていた前原誠司氏を指名した。自民党にとって、この「教育無償化」は「年収の壁」

よりも安上がりには妥協できる政策だから、ひょっとして自民党は、国民民主党ではなく、日本維新の会に擦り寄ることに・・・？しかし、教育を無償化すれば年々低下している日本の教育が本当に良くなるの？私には到底そうは思えないが・・・。

「学校モノ」の名作は、日本では、山田洋次監督の『学校』（93 年）シリーズ等とたくさんある。中国でも『子供たちの王様』（87 年）（『シネマ 5』267 頁）、『草ぶきの学校』（99 年）（『シネマ 5』270 頁）、『思い出の夏』（01 年）（『シネマ 5』273 頁）等の名作がある。ドイツでもそれは同じだ。しかしメキシコでは？そもそも、メキシコは教育大国ではなく、むしろ教育劣等国！そんなイメージが強い。現に麻薬と殺人が日常と化した国境近くの小中学校では、子どもたちは常に犯罪と隣り合わせの環境で育ち、教育設備は不足し、意欲のない教員ばかりで学力は国内最低らしい。ところが、アメリカとの国境近くにあるマタモロスの小中学校で 2011 年に起きた実話を描いた本作は、本国で 300 万人を動員し、2023 年 No.1 の大ヒットを記録したというからすごい！そんなことが本当にあるの？そう聞くとこりゃ必見！

■私の体験における小中学校の某教師 VS 中学校の某教師！■

1949 年（＝昭和 24 年）生れの私は、貧乏ながら教育熱心な両親の下で育ったため、1 学年違いの兄とともに、愛光学園という中高一貫の進学校に入り、当然のように一流大学への合格を目指すことになった。小学校入学前の私は、さすがにピアノのレッスンはしなかったものの、木琴や鉄琴等で音楽もよく学び、写生にもよく出かけるなど、音感教育、情操教育にも熱心だったうえ、小学校の学業では当然のように常にトップだった。さらに、4 年生からはコーラス部や放送部でも活躍したから、とりわけ音楽の教師には個人的な親しみをもち、自由を謳歌しながら、勉強とクラブ活動（？）に精を出していた。

ところが、中学受験に成功し、秀才ばかり約 200 人が集まる中学生活がはじまると、たちまち数学、物理、化学がわからなくなったからヤバイ。1 年先に入学した兄は成績優秀で、常にトップグループにいたが、弟の私は 1 学期からひどい成績だった。さらに、多くの生徒の数学の成績が悪いのは若い新任教師の教え方が悪いためだ、との苦情が出され、結局数学教師の交代劇にまで発展したから、すごい。それによって急に成績が良くなった生徒もいたようだが、残念ながら私はやっぱりダメだった。このように私は小学 5、6 年生当時と中学 1 年当時では、教師を巡って何とも対照的な体験をした。

しかして、本作はメキシコ国境近くの危険地域にあるマタモロスにあるホセ・ウルピナ・ロペス小学校の新学期、マタモロス出身のフアレス（エウヘニオ・デルベス）が、担任が出産で学校を辞めた小 6 のクラスの“穴埋め”のために赴任してくるところからはじまる。時は 2011 年だ。しかし、ENLACE（3、4、5、6、9、12 年生の全生徒が受験する国家試験）で全国最下位で、6 年生の半分以上は卒業が危ぶまれる小学校に、こんな“穴埋め”教師の補充で大丈夫なの？

■化学の授業はユニークだったが、本作の授業も型破り！■

学校というところは、役所と同じように何事も前例踏襲が原則であり、かつ良いことだとされている。したがって、織田信長や坂本龍馬のような“異端児”は学校には向かないし、アインシュタインのような“本物の天才”も学校は邪魔になるだけの存在だったらしい。また、そもそも学校の組織そのものがそういう体質だから、教師も大政翼賛会的な体質に染まってしまうのは当然だ。ホセ・ウルビナ・ロペス小学校の校長チョチョ（ダニエル・ハダッド）も、典型的なそれだったらしい。

私は中学 1 年生の化学の授業ではじめて、あっけにとられるほどビックリさせられたことを今でもよく覚えている。それは「モノはなぜ燃えるのか？」をテーマとした化学らしい授業だったが、はじめてから終わりまで笑っぱなしだった。私はなぜここにそんな昔の思い出話を書いているの？それは、本作冒頭、机と椅子を教室の脇に積み、床の真ん中に座るフアレス先生が、「これは救命ボートだ。どのボートにも乗れる人数は同じ、乗れない人は溺れる、君たちは 23 人でボートは 6 つ、さあどうする？」と問いかける授業風景が、あの時の授業風景とそっくりだったためだ。生徒たちが「幼稚園みたい」「変なの」と言いながら戸惑ったのは当然だが、次第に生徒たちは協力しながら、フアレス先生の問いを真剣に考え始めたからすごい。

この授業風景は一体ナニ？フアレス先生は一体何を指して、こんな型破りな教室を開いているの？

■事実に基づく物語！次のスティーブ・ジョブズは誰？■

最初に「事実に基づく物語」とスクリーン上に表示される映画は多い。本作もまさにそれだ。本作の主演として登場する 3 人の子供（生徒）たちは、父親と共にゴミを売って生計を立てる女の子パロマ（ジェニファー・トレホ）、幼い兄弟の世話をする女の子ルペ（ミア・フェルナンダ・ソリス）、そしてギャングの兄を手伝う弟のニコ（ダニーロ・グアルディオラ）だが、彼らのホセ・ウルビナ・ロペス小学校での学校生活は、私の小学生時代のように恵まれたものではなく、「学校に通えるだけでラッキー！」と言えるレベルだ。現実には、あるトラブルから命を落としてしまったニコをはじめとして、明日から学校に行くことが不可能になっても仕方がないような、貧しい境遇で暮らす底辺の子どもたちばかりだ。パロマも父親が病気になった時は一時的に学校に行けなくなったし、ルペだって母親が赤ちゃんを産めば、その子守りをしなければならないから、学校行きは一時中断せざるを得ない。しかし、宇宙飛行士を夢見るパロマの計算能力や望遠鏡の組み立て能力を見ていると、彼女はまさに天才だ。

他方、現在のアメリカで最も有名な実業家は、2025 年 1 月 20 日に発足するトランプ政権下で、新しく発足する政府効率化省のトップに就任するテスラ社の創業者イーロン・マスク氏だが、かつてのそれが、スティーブ・ジョブズ氏だったことは間違いない。パンフレットによると、本作の映画化の旅は、雑誌『WIRED』の 2013 年 10 月号に掲載された

ジャーナリスト、ジョシュア・デイヴィスのカバーストーリー「天才の世代を解き放つラディカルな方法」の冒頭の文章「ここでは学校を懲罰の場と呼ぶ人もいます」から始まったそうだ。同記事では、フアレス先生の教え子の一人である数学の天才パロマ・ノヨラ・ブエノの写真を表紙に掲載し、「次のスティーブ・ジョブズは 11 歳のメキシコ人少女だ」という挑発的な見出しが飾ったらしい。つまり、本作にみる小学生の女の子パロマこそ、次のスティーブ・ジョブズ氏に間違いなし、とされたわけだが、そんな予測の成否は？

■□■ENLACE とは？メキシコにも全国統一試験が？■□■

1949 年＝昭和 24 年生まれ私の私は、いわゆる団塊世代。そのため、生まれた時から競争が当たり前で、中高時代は「大学の受験勉強がすべて」という世界に置かれたし、大学卒業時には自分の選択で司法試験という過酷な受験競争を決めた。もちろん、弁護士登録後も、個々の訴訟での勝敗を巡って、“勝つこと”が大事であり、負けるについても何らかの合理的な理屈づけが不可欠だった。

他方、昔から「科挙の制度」を持つ中国では、「高考」という受験制度があり、日本以上に過酷な競争と言われている。しかし、教育劣等国（？）たるメキシコでは、そんなことはないはずだ。そう思っていたが、本作ラストには、フアレス先生の「型破りな教室」で授業を受けたパロマやルペを含むすべての生徒が、メキシコ版の“小学校全国共通テスト”とも言うべき「ENLACE」に挑むシークエンスになるので、それに注目！私の愛光学園という中高 6 年間の一貫教育は、すべて一流大学を目指すためのものだったから、原則的に高 2 までに 6 年間の課程のすべてを修了し、最後の 1 年間は志望校の受験対策に集中するというシステムだった。しかし、フアレス先生の「型破りな教室」では、例えばパロマは天体望遠鏡の組み立てに熱中し、ルペはスチュアート・ミルの哲学書に熱中していたが、中学受験のための「傾向と対策」は一切取っていないから、本当に大丈夫？

もっとも、本作ラストのストーリー展開を観ていると、メキシコでは ENLACE の問題が不正に入手されることもあるらしいから、フアレス先生も同僚の教師と共にそれに乗っかれば大丈夫？ところが、フアレス先生がそんな不正を断った腹いせ（？）に、「フアレス先生が生徒たちに試験勉強をさせていない」という密告を受けた教育委員長によって、フアレス先生は ENLACE までの 2 週間、停職処分とされた上、さらなる悲劇も！さあ、今年の ENLACE は一体どうなるの？そして、それを一斉に受験したフアレス先生の「型破りな教室」で学んだ生徒たちは、どんな成績を残すことができるの？固唾を呑んでその結果を見守っていると、ラストに表示された成績発表にビックリ！これこそまさに「型破りな教室」の奇跡だ！私は、こんな映画、大好き！

2025（令和 7）年 1 月 6 日記